

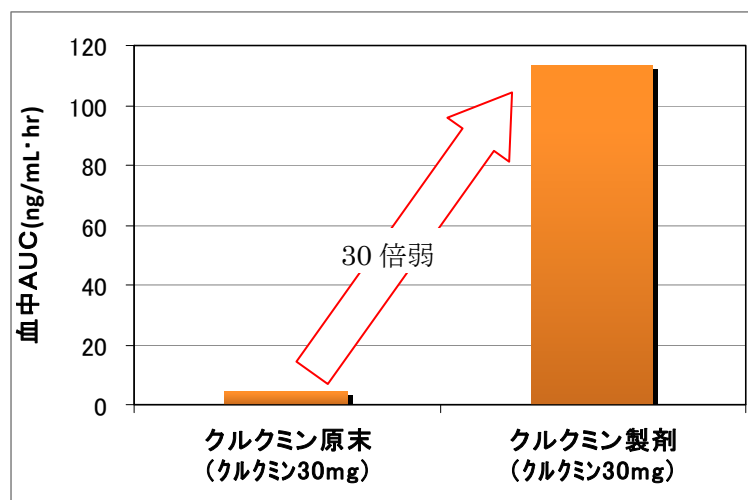
(参考資料 1) クルクミンとは

クルクミンはウコンに含まれる黄色色素成分で、ポリフェノールの一種。ウコンに含まれる数多くの成分の中でも、もっとも重要な活性成分(主成分)といわれています。一般的に二日酔い予防に効果があることがよく知られていますが、それ以外にもさまざまな生理作用(抗酸化、抗腫瘍、抗アミロイド、抗炎症など)が報告されており、近年、クルクミンの生理活性と医学的有用性については、日本を含むアジア、アメリカなど世界各国で盛んに研究が行われています。当社の実験においても、心不全、心肥大、心筋梗塞などの心臓病予防の生理作用が認められており、今後もさまざまな応用が期待されています。

*クルクミンの主な効能(生理活性と医学的有用性)

- 肝機能強化(飲み過ぎ、脂肪肝、肝硬変の予防、デトックス)
- 各種癌の予防・QOL (Quality of Life) の向上
- アルツハイマーの予防・治療
- 心臓病予防(心不全、心肥大の予防)
- メタボ予防(悪玉コレステロールの低減)
- 動脈硬化の予防・改善
- リウマチ
- 抗炎症 など

(参考資料 2) クルクミンの吸収性に関するヒト試験結果(血中濃度 AUC 比較グラフ)



セラバリューズが開発した細粒化製剤の場合、クルクミン原末に比べ、クルクミンのAUC^{*1}が約30倍弱と、きわめて高いという結果がでました。

(*1) AUC=血中濃度-時間曲線下面積、area under the blood concentration-time curve

吸収率やバイオ・アベイラビリティ^{*2}の指標として用いられ、効果の強弱を反映するひとつの目安といわれています。

(*2) バイオ・アベイラビリティ=生物学的利用性

投与量に対して循環血中に移行した量の比率および、その速度のこと。